

# 笛吹市地域おこし協力隊 平成30年度活動報告

木村早希、八木優彰

【活動期間】平成30年4月1日～平成31年3月31日

【配属先】笛吹市役所 総合政策部 企画課 移住定住担当

## 【活動概要】

### ①笛吹市への移住を促進する活動

市役所の移住定住担当の下、市内への移住を促進するための活動を行った。

- ・移住相談会、セミナーに出席  
昨年度に引き続き、主に首都圏で行われる移住相談会や移住セミナーに出席。相談に応じるほか、PRチラシも作成した。



### ②笛吹市の新しい特産品開発および任期終了後の起業に向けた活動

昨年度「地域おこし協力隊ビジネスアワード」に採択されたマスタード事業を進めた。

#### ・カラシナの栽培、収穫

昨年末に植えたマスタードの原料、カラシナの種を収穫。畑は主に遊休農地を活用した。



・発芽直後の様子



・開花の様子(収穫前)

#### ・ぶどう果汁の製造

市広報で、捨ててしまう未熟ぶどうを市民の方々から募集し、果汁を製造。それにカラシナの種を潰け、潰すことでマスタードを製造した。



### ・お披露目会の開催

8月頃に初の製品が完成。9月24日にお披露目会を開催した。

市民の方をはじめ約50名が出席。市内の農家民宿とコラボレーションし、マスタードを使った料理4品を振舞った。



### ・クラウドファンディングの実施

事業拡大のための資金調達、事業のPRを目的にしたクラウドファンディングを、9月24日～12月31日に実施した。

ふるさと納税の仕組みを活用した「ガバメントクラウドファンディング」を実施し、県内外より703,000円を調達した。



### ・製品化、販売

パッケージ等を製作し、小売店等で販売できるように製品化した。

農産物直売所「八代グリーンファーム」、地場産業センター「かいてらす」、東京にある山梨県のアンテナショップ「富士の国やまなし館」等で販売。任期終了後も販売店を増やし、笛吹市のPRにつなげたい。



### ③情報発信活動

活動のPRや、市内外に活動内容、笛吹市の魅力などを発信した。

- ・ SNSで情報発信  
地域おこし協力隊として Facebook ページ、Twitter、ブログを更新した。
- ・ マスメディアへの出演  
山梨県内のメディアを中心に、マスメディアへも積極的に出演した。  
新聞約 6 回（山梨日日新聞、朝日新聞、日本農業新聞等）、雑誌 1 回、テレビ 3 回、ラジオ 2 回、WEB メディア 1 回に出演
- ・ 広報にコラム掲載  
昨年度に引き続き、広報誌にコラムを連載した。  
「地域おこし協力隊が〇〇したってよ！～活動報告～」というタイトルで毎月半ページ掲載した。



### ・ 県内外のイベントに出展

活動をより多くの方に知っていただくため、県内外のイベントに出展した。

出展イベント一覧：桃まつり（4/6～4/8・市内）、リニアフェス（8/24・県内）、地域おこし協力隊マルシェ（9/15・東京）、台東区ふるさと交流ショップ（9/27～10/2・東京）、6次産業化セミナー（11/7 市内）、県民の日まつり（11/11・県内）、ワインツーリズム（11/18・市内）、



### ④農業への取り組み

- ・ ぶどう果汁生産、生食用ぶどう生産のため、ぶどう畑の管理を始めた。
- ・ 地元農業生産グループが開発した濃縮すももペースト事業を引き継いだ。



## ⑤その他の活動（ボランティア含む）

峡東地域創生連携会議、ふえふき子どものたまり場プロジェクト、市民まつり実行委員会、ワインツーリズムなどへの参加・運営に携わった。

### 【所感】

（木村）

私は約3年前に笛吹市に移住して協力隊となったが、最初は分からないことだらけであった。「車が無いと生活できない」など戸惑う事もあったが、「自然豊か」「果物が美味しい」といった多くの魅力も見えてきた。その魅力の中からヒントを得て、マスタード作りにつなげることができた。

最終年度は3年間のまとめとなる活動と、任期終了後を見据えた活動を心がけた。メインの活動となったマスタードに関する事業では、「お披露目会」という形でこれまでお世話になった方々に向けても成果を報告できたと思う。また販売先を任期中から見つけられたことで、任期終了後に事業を継続する基盤を作れたと思う。

地域資源を活かしながら、自分らしい生き方を実現できるのも笛吹市の魅力だと体感した3年間であった。任期終了後も事業を続けながら、笛吹市を盛り上げる活動を続けていきたいと考えている。

（八木）

任期最後の年となった30年度は、前年度までの活動を発展させた活動に取り組んだ。具体的には、前年度まで試作や試験栽培を行っていた笛吹市産マスタードの事業化と、それと並行して任期後に収入の基盤となるぶどう畑の管理を始めた。

マスタード事業に関しては、原料の栽培でいくつかの問題があり現在も試行錯誤の段階であるが、販路に関しては任期後半に広げることができ、今後も継続して拡大していきたい。また、多くのメディアに取り上げてもらい、市のアピールにもなったと思う。

マスタード事業と並行して進めたぶどう畑の管理については、今年度後半までに巨峰とピオーネを2000㎡、新規で1500㎡のぶどう棚を確保できた。2年4か月、地域おこし協力隊として笛吹市に住み、多くの人に助けってもらい多くの経験を積むことができた。任期終了後も笛吹市に定住し、経験を活かして事業の拡大と就農に取り組んでいきたい。